

# 医療タイムス

週刊医療界レポート

2014.2/17 No.2146

特集

## 介護付き地域社会を目指す これからのケアの在り方



タイムスインタビュー

消費税は税制の問題  
診療報酬上の補填ではなく課税化すべき

前参議院議員 元厚生労働大臣政務官  
日本医師会総合政策研究機構 客員研究員

梅村 聡氏

タイムスレポート

2014年(第30回)日本国際賞  
生命科学分野からアリス博士が受賞  
情報化社会貢献で末松博士も

Top News

14年度報酬改定案を答申—急性期病床を削減 中医協・総会  
後期高齢者保険料、賦課限度を引上げ 厚労省

# 医師だからできる経営実践術

勝つための必須項目 その32

## 未来を見据えろ

日常の業務で一段落つく昼頃と夕方に時々職員が私の部屋に顔を出すことがあります。特にこれといった相談ではなく、雑談にやってきます。つい先日も職員のア君が来ました。仕事熱心で好奇心も旺盛です。今回は私から彼に1つの質問をしてみました。「いつまでここで働くつもりなの?」と。

ア君はしばらく答えに窮していましたが、「ずっとここで仕事をしたいです!」と答えてくれました。確かにクリニックにとっては大変喜ばしいことです。しかし、私個人としてはあまり賛成できない答でした。

そしてア君に、「まずは20年後の自分を想像してごらん」と言いました。20年後も私のクリニックで今と同じように仕事を続けているのか。あるいは、違う環境である程度パリエーションを効かせた仕事をしているのか。それとも、独立開業しているのか、違う職種に就いているのか。さまざまな可能性が見えてくるはずですよ。

今はこの職場で仕事をするのが有意義で居心地がよくても、5年、20年先になれば、彼の価値観も変化するでしょう。そのほかにも、家族や社会情勢、自身の体力など、いろいろなことが変化していきます。これらの要因を考えた結果、20年後もここで仕事するのであれば納得できますが、多分、彼は考えていないのだらうと思います。

これは、私自身も勤務医時代に経験したことです。勤務していた病院に一生身を捧げるつもりでいましたが、その1年後には起業し、退職と同時にクリニックも開業しました。

もちろん、決して安易に転身したわけではありません。めまい発作が生じるほどのストレスと、情報収集や勉強をした結果、決断したことです。この決断するまでの期間は、恐らく個人差があるでしょう。5年~10年の場合もあれば私のように1~2年の場合もあるでしょう。

自分自身に変化をもたらすきっかけや要因で大きなものは、やはり「人との出会い」です。



放射線科専門医

(株)SEM medical solution代表取締役  
医療法人社団南星会理事長(湘南な  
ぎさ診療所、湘南ライフタウン診療所、  
湘南なぎさ訪問看護リハビリステーション)

しま だいいじ  
**島田栄治**

1969年生まれ、1994年東邦大学医学部卒業、国立病院機構災害医療センター放射線科医長を経て、2005年(有)SEM medical solution設立。2007年湘南なぎさ診療所開業。

あくまでも私の経験ですが、大病院では1日の大半を院内で過ごします。月の3分の2は院内で勤務します。つまり、同じ環境や価値観の中で大半を過ごすことになりますし、激務ですので仕事以外のことはインプットされにくい状況になります。外部からの強烈な刺激や、自身の内部での価値基準の変化がなければ、変化が起きることはなかなかないでしょう。だから人との出会いは、生き方を変えるのです。

たった1人との一瞬の出会いでも、一生が変わることすらあります。利害関係を考えずにどんな些細な出会いでも、意味や価値があると解釈できますし、自分自身が成長することにつながります。現状を全て肯定し受け入れ、思考停止に陥ることは決して好ましいわけではありません。むしろ、些細な疑問点や不安を受け入れ、それを解決するために思考・模索することが重要だと思います。

人との出会いは、これらを気づかせてくれるきっかけや触媒になるのだと考えます。

ア君には「いつまでもこのクリニックにいては駄目だよ。ここは単なる通過点だから…」と伝えました。自身を取り巻く環境や社会情勢、そして人との出会いを通じて、価値観というものはいずれ変化します。別の言い方をしますと、自分自身で変化していく必要があるということです。

20年は長いようで短いです。私が医師国家試験に合格して、ちょうど20年目になります。20年で取り巻く環境や社会情勢は大きく変化しましたし、私自身の価値観、考え方も大きく変わりました。これから先20年後も、きっと今とは変わっていることでしょう。